

2026 年第 20 週の報告です。

南丹の **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**が、今週も引き続き警報レベルです。乙訓では**咽頭結膜熱**の報告数が増加し、新たに警報レベルになりました。**水痘**は京都府全体の報告数が注意報レベルまで増加しました。保健所別では乙訓の警報レベルが継続しており、南丹でも新たに警報レベルまで報告数が増加しましたが、山城北の警報は解除されました。

全数把握対象疾患は、**結核**が 8 件、**腸管出血性大腸菌感染症**が 4 件、**A 型肝炎・レジオネラ症・侵襲性肺炎球菌感染症**と**水痘（入院例）**がそれぞれ 2 件、**劇症型溶血性レンサ球菌感染症**と**後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）**がそれぞれ 1 件、**梅毒**が 3 件報告されました。

水痘（水ぼうそう）が府全体で注意報レベルまで増加したため、改めて注意喚起を行います。疾患の詳細については[第 8 週のコメント](#)を参照ください。

COVID-19 流行中は報告数が激減していた水痘ですが、2024 年頃から報告数が増加し、今年は今までの週で昨年を上回る数が報告されています。同時に全数報告の入院例も 2021 年以降年々増加しており、今年も現時点で計 11 例と昨年の年間 17 例も上回るペースで増加しています。

発症の 9 割が 9 歳以下、と言われている水痘ですが、府内で報告されている年齢層は、現時点で最も多いのが 10-14 歳の年齢層です。

水痘は平成 26 年にワクチンが定期接種化され、以後生後 12 か月～36 か月の子どもを対象に計 2 回の接種が行われています。水痘ワクチンは 1 回の接種により重症の水痘をほぼ 100%予防でき、2 回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。対象のお子さんがある方は接種をご検討ください。また、感染力が強く飛沫、接触のほか空気感染もします。感染拡大防止のため、手洗いや場面に応じたマスクの着用、こまめな換気等の感染対策を心掛けるようにしましょう。